２－１　各部の納まり詳細図

木造軸組下地　　横張り　　金具施工

1）基本構成図・下地組図	１．５尺×１０尺

●通気土台水切は胴縁組みを行う前に取り付け、防水紙を上にかぶせて施工します。
●入隅部や出隅部などで胴縁が躯体に留め付けられない場合は、追加下地を設け、必ず下地に留め付けるようにします。
●下地組みは図のように木胴縁を使用し、スギ材は厚み１８㎜以上、ベイツガ材は厚み１５㎜以上の乾燥材を使用します。
●木胴縁の幅は４５㎜以上を標準サイズとし、左右接合部、出入隅部や開口部まわりなどの指定箇所には倍幅の９０㎜以上を使用します。
●木胴縁はN６５、CN６５以上の釘またはφ３．８㎜×５０㎜以上の木ビスを用いて、５００㎜以下の間隔で躯体に留め付け、仕上げ面の不陸（段差）が3㎜以下となるように調整して施工します。
●縦胴縁と開口部まわりの胴縁は３０㎜程度隙間を設け、通気する構造とします。
●積雪地域では、積雪の高さまで補強胴縁を取り付けます。（P３４参照）

